

## 外国人コミュニティによる地域イベントの実態と課題に関する一考察

- 江戸川区西葛西のディワリフェスタを事例として -

正会員 ○ 井澤 和貴\*  
正会員 上山 肇 \*\*多文化共生 外国人コミュニティ 在日インド人  
ディワリフェスタ 江戸川インド人会 江戸川区西葛西

## 1. はじめに

## 1.1 研究の背景

近年、日本においては、外国人の出稼ぎや1990年の出入国管理及び難民認定法の改定により、外国人数が増加をしてきた。

外国人の増加に伴い、江戸川区西葛西のような外国人数の多い地域では、地域内に外国人によるコミュニティが展開された。

そのようなコミュニティでは、最初はニューカマーとして日本に移住した外国人に対し、生活のサポートを行って発展してきたケースも見られる。江戸川区西葛西を中心に活動する江戸川インド人会は、日本に移住するインド人に対し、部屋を借りる際のサポートを行い、コミュニティが広がった。

そして、最近の外国人コミュニティは、生活のサポートから発展し、地域社会において様々なイベントを主催する例もある。そのようなイベントは、外国人にとって故郷を思い出すきっかけや、日本人の地域住民と交流を行うなど、様々な可能性も持ち合わせている。

## 1.2 研究の目的

かねてより、外国人住民と地域住民がお互いに理解し、生活する「多文化共生」が求められてきた。多文化共生について、総務省(2006)は「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」としている。そのため、多文化共生を実現する意味においても、外国人コミュニティの実態や、彼らが主体となる地域づくりについての実態把握が求められる。

そこで、本研究では外国人を取り巻くコミュニティの実態と課題について、「地域イベント」の視点から明らかにする事を目的としている。

## 1.3 研究の方法

本研究では、外国人の地域イベントに対する意識から彼らを取り巻く現状や課題について研究をするため、日本で2番目に外国人を多く有する江戸川区にて調査を行った。調査では、在日インド人に対する支援を行ってきた江戸川インド人会から発展した「ディワリフェスタ」において、来場した在日インド人に対するアンケート調査を行った。

今回の調査では、2017年10月23日(土)に開催されたディワリフェスタにて、事前に運営主催者の許可を得て、来場した在日インド人に対し無作為抽出の面接式アンケートを行った。なお、調査の際に使用した言語は英語である。

アンケート調査では計43人の回答を得た。質問内容は、以下の通りである。

表1 本研究におけるアンケート調査の内容

| カテゴリー               | 質問の内容                           |
|---------------------|---------------------------------|
| 基本項目                | ①年齢 ②性別 ③住まい<br>④居住の年数の分布       |
| 江戸川区について<br>(在住者のみ) | ⑤江戸川区居住の理由<br>⑥居住の理由(在住者のみ)     |
| ディワリフェスタに<br>ついて    | ⑦来場の回数 ⑧来場のきっかけ<br>⑨他のイベントの参加有無 |

## 2. 研究対象地域の概要

江戸川区は、日本で最も多く在日インド人を有する自治体であり、2018年には、3,225人の在日インド人が住んでいる。2000年当時、江戸川区在住のインド人は205人であったが、2018年には約15倍に拡大をした。

西葛西に在日インド人が集住した理由としては、江戸川インド人会会長の存在がある。会長は2000年以降にインド人の人口が増えると、ボランティア団体として江戸川インド人会を作り、生活、医療、教育などの情報共有と、在日インド人のサポートを行って来た。

江戸川インド人会は、ディワリフェスタの開催にも貢献する。ディワリとは、ヒンドゥー教徒の新年を祝うイベントであり、現在はディワリフェスタ実行委員会が準備を進め、毎年10月に開催されている。

## 3. 調査結果

## 3.1 調査結果の概要

今回の調査では、在日インド人男性33人、女性10人の回答を得た。年齢は、20代が9人、30代が25人、40代が8人、60代が1人であった。

居住の年数について、半年以下が13人、半年以上1年未満が7人、1年~2年が4人、2年~3年が2人、3年以上が17人であった。ディワリフェスタ来場者の居住地は、表2に示す。

表2 ディワリフェスタ来場者の居住地 (N=43)

| 居住地     | 人数(人) |
|---------|-------|
| 東京都江戸川区 | 32    |
| 東京都江東区  | 4     |
| 千葉県市川市  | 3     |
| その他     | 4     |

上記のうち、江戸川区に在住している在日インド人の来場者の居住地（有効回答 30）について、表3に示す。

表3 江戸川区在住者の居住地の分布 (N=30)

| 居住地 | 人数  |
|-----|-----|
| 清新町 | 25人 |
| 船堀  | 2人  |
| 西葛西 | 2人  |
| 新田  | 1人  |

ディワリフェスタ来場の回数としては、初めて来場した人が1番多く、43人中、17人であった。次に、2回目の来場が多く、12人が該当した。なお、3回目の来場は7人、4回目の来場は5人であり、5回以上来場した人は2人であった。ディワリフェスタに来場した理由と良かった点については、表4、表5に示す。

表4 来場の理由 (N=43) (複数回答可)

| 理由                 | 人数(人) |
|--------------------|-------|
| インドの文化を楽しむため       | 29    |
| インドの料理を食べるため       | 18    |
| 日本人と会話をするため        | 11    |
| 日本人の知人から教えてもらったため  | 5     |
| インド人の知人から教えてもらったため | 5     |
| たまたま立ち寄ったため        | 3     |
| その他                | 8     |

表5 良かった点について (N=43) (複数回答可)

| 良かった点                   | 人数(人) |
|-------------------------|-------|
| インド料理を味わう事ができた点         | 30    |
| ステージパフォーマンスを見る事ができた点    | 20    |
| 多くのインド人を知り合う事ができた点      | 18    |
| 出身国を思い出す事ができた点          | 15    |
| 日本人がインドに興味を持っている事が分かった点 | 14    |
| 多くの日本人と知り合う事ができた点       | 14    |
| インドの日用品を購入する事ができた点      | 10    |
| 日本人、インド人以外の多くの人と知り合えた点  | 4     |
| 特になし                    | 1     |
| その他                     | 1     |

### 3.2 調査結果の分析

今回の調査では、初めてディワリフェスタに来場した日インド人もいたが、2回以上来場した人は、43人中26人(60%)であり、リピーターとしての来場者も考えられる。

在日インド人がディワリフェスタに足を運ぶ理由として、「インド料理を食べる」「インド文化を楽しむ」といった動機が多く挙げられる。

以上の事から、外国人コミュニティが主催する地域イベントについては、彼らにとって「出身地の文化を味わう」「出身国を思い出す」等のニーズを満たす役割となり得る。

一方で、ディワリフェスタ来場者は、「多くの日本人と知り合う事ができた」を良かった点として回答した人は少なく、43人中14人(32%)であった。

現在は、ディワリフェスタは在日インド人同士の交流がメインとなっているが、今後は外国人自身の防災や医療、教育など地域に関する情報を共有するためにも、在日インド人と地域住民の連携が求められる。そのため、ディワリフェスタに代表される地域イベントは、地域社会と外国人コミュニティをつなぐ機能も求められる。

### 4 まとめ

今回は、ディワリフェスタを事例として、地域イベントの視点より、外国人コミュニティを取り巻く実態と課題を把握するために調査を行った。

外国人コミュニティが主催する地域イベントでは、外国人が、「出身国の文化を味わう」「出身国の文化を思い出す」などのニーズを満たしていた。

一方で、ディワリフェスタの課題としては、「日本人住民とのつながりの場の不足」が挙げられる。日本人と外国人のつながりは外国人にとって、医療や防災など、日本での生活情報を得る手段なり、日本人住民にとっても、国際意識を向上させる等、多くの可能性を持っていると言えよう。

そのためにも、今後のディワリフェスタは、現状のイベントから発展し、国籍の枠を越えた住民と交流するイベントづくりが求められる。

#### 【謝辞】

今回の調査は、ディワリフェスタ実行委員会の協力を得た。また、アンケート調査においては、法政大学大学院政策創造研究科上山肇研究室に所属する学生の協力を得た。ここに記して謝意を表す。

#### 【参考・引用文献】

- (1)総務省(2006)『多文化共生の推進に関する研究会報告書 ～市域における多文化共生の推進に向けて～』
- (2)法務省(2018)『在留外国人統計』
- (3)東京都(2018)『外国人人口』

\*法政大学大学院 政策創造研究科 修士(政策学)

\*\*法政大学大学院 政策創造研究科 教授

博士(工学),博士(政策学)

\* Graduate Student, Hosei Graduate school of Regional Policy Design  
Master of Policy, Planning, and Development

\*\*Hosei Graduate school of Regional Policy Design, Prof., Dr. Eng., Ph.D.